

県立新発田病院だより

第74号 2025年3月発行

新潟県立新発田病院

〒957-8588 新発田市本町 1-2-8
TEL.0254-22-3121 FAX.0254-26-3874
<http://www.sbthp.jp/>

【当院の基本理念】

1. 県北の急性期高度医療を担い、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんに優しく安全で信頼される病院を目指します。
3. 保健福祉・医療機関と連携して地域の基幹病院としての役割を担います。
4. 教育・研修を積極的に行い、医療の未来に貢献できる人材を育てます。

目次

- P 1. 巻頭言：新発田病院退職にあたって～30年間ありがとうございました。
P 2. 病院トピックス：2年間の臨床研修を振り返って
P 3. 脳は時なり「ゴールデンタイム」に挑む最新鋭装置を備えて、ミニクイズ、患者さんの権利
P 4. 患者さんの声、編集後記

新発田病院退職にあたって ～30年間ありがとうございました。

新潟県立新発田病院 副院長（循環器内科） 田 辺 恭 彦



この30年間で感じた病院内の変化について気づいたことを挙げてみます。

1. 病院の変化：新病院になった時に医療内容は不変であるにもかかわらず、突然周りからの信頼度が高まった。きれいな環境だと同じことをしても印象が異なるのだと認識した。現在では外観以上に内部は充実しており、新潟大学をはじめ多くの医療系の学校からたくさんの学生を引き受ける教育病院に変貌を遂げた。新潟県内のトップを争う実績を残すまで進化した。（当科での急性心筋梗塞に対する緊急ステント治療数は県内トップで、来院から治療完了まで要する時間は最短です。）
2. 医師の変化：白衣姿の医師が激減しスクラブ（手術着のような上下同じ色のスタイル）姿が一般的になった。昭和時代のTVドラマ“白い巨塔”にて主人公を演じた田宮二郎、あるいは平成のリメイク版での唐沢寿明のように長袖の白衣を身にまとい、部下を引き連れて颯爽と歩く姿が一般的な医師のイメージであった。平成半ば以降にドラマ“コードブルー”にて救命救急医が上下ブルーのスクラブ姿でかっこよく働く姿が放映された頃から特に若い医師の白衣姿が減ってきた。スクラブは動きやすく特に緊急事態に対応するのに適していそうなので、私もために購入してみた。鏡を見て、“なかなか似合っている”とご機嫌になっていたが、階段を昇る度にポケットに入れている聴診器や手帳が落ちてしまうため全然機能的ではなかった。（あくまで個人的な感想です。）
3. ナースの変化：ナースの象徴であったナース

キャップがいつの間にか消え去った。（衛生面の問題が理由らしいが、看護学生が病院実習を始める前に行う戴帽式は残っている。）ワンピース型の白衣（当院は淡いピンク色）が消え去り、全員がパンツスタイルになった。これは極めて機能的である。最近では部署によりスクラブ姿も見受けられるようになった。

看護婦という呼称が消え去った。以前は男性ナースを看護師、女性は看護婦と呼んでいたがいつの間にか看護師に統一された。婦長さんは師長になった。（なぜか師長にはさん付けをせず、師長と呼ぶことが多い。）

4. 外来診察室の変化：水銀血圧計がなくなった。以前は外来診察室で血圧計を巻きシュバシュバ空気を入れて血圧を測定していたが、今は電動式の血圧計に完全に置き換わった。水銀血圧計の目盛りが2 mmHg刻みであったため、必ず血圧値は偶数で記載していたが、電動式では奇数の値も表示される。いまだに奇数の血圧値にはなじめない自分がいる。

シャウカステン（後ろから光を当ててレントゲンフィルムをみるための装置）がなくなった。レントゲンフィルム自体もなくなり、すべて電子カルテ内のデジタル画像として閲覧するようになった。また電子カルテでは動画も閲覧できるため患者さんへの説明も楽になった。

新発田病院にて皆様に支えられながら30年間楽しく過ごすことができました。大変ありがとうございました。今後の新発田病院のさらなる発展を祈念します。



2年間の臨床研修を振り返って

初期臨床研修医 館 宙 依

研修医2年目の館宙依です。私は新潟市で生まれ、小学校から大学まで地元の新潟市で過ごしました。学生時代は小1で始めたサッカーをかれこれ大学卒業までの18年間続け、まさにサッカー漬けの日々を送っていました(ちなみにサッカーは今も続けています)。そんな中で新発田病院は部活のOBの研修医が多く、また病院の特色としても救急車の受け入れ台数が県内1のいわゆるハイパー病院であることや飲み会が好きな先生が多い病院だと聞き、初期研修先としてこの病院を選ぶのに何の迷いもありませんでした。

いざ研修が始まると、わからないことできないことだらけで、先生方や研修医の先輩方の偉大さを痛感する日々でした。当院の研修のシステムは5週間毎に研修する診療科が変わるため、少し慣れたと思ったらまた次の科の研修となり変化の目まぐるしい2年間だったなと感じています。また前述したとおり当院は県内でも屈指の救急外来であり、1年目の頃は毎回大きな不安を抱えながら当直をしていたのを今でも鮮明に覚えています。当院は県北唯一の三次病院であるため県北の重症患者さんはほとんどが当院に搬送されます。それに加え新発田地域を中心とした一次救急や二次救急の受け入れ、walk inの患者さんの対応、また患者さんからの電話対応も行わなければなりません。本当に慣れるまで時間がかかりましたし、今でも当直の度に反省する毎日ですが、この病院で研修できたことは私の今後の医師人生の大きな財産になると感じています。

月日の流れは早いものでまもなく研修生活も終わりを迎えようとしています。4月から各々が決めた診療科を専攻し働くことになります。これまで以上に責任も業務量も勉強しなければいけないことも増え、多忙をきわめる日々になると思います。私はサッカーを長年していたこともあってスポーツ外傷に興味があり、学生の頃からの志望科であった整形外科を来年度から専攻します。通常同期の研修医は来年度から勤務先がばらばらになることが多いですが、縁があってか幸いにも私を含め多くの研修医が4月から新発田病院での勤務になりました。専攻する科は違いますが、研修医の頃のように支え合いながら来年度も研鑽を積んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、本当に多くの方々を支えられた2年間でした。私1人の力ではここまで成長することができませんでしたし、研修生活を通して関わったすべての方々には感謝の気持ちで一杯です。まだまだ未熟ではありますが、2年間育ててくださった皆様に少しでも追いつけるよう今後とも精進していきたいと思っています。最後に、この場を借りて皆様に厚く感謝を申し上げます。2年間、大変お世話になりました。



脳は時なり

「ゴールデンタイム」に挑む最新鋭装置を備えて

主任放射線技師 殿内 秀人

■「ゴールデンタイム」といえば

皆さんは「ゴールデンタイム」と聞いて、何を連想されるでしょうか？

多くの方は、テレビ放送などにおいて視聴率が最も高まる時間帯である、19時から22時くらいの時間帯を思い浮かべるのではないのでしょうか。

この「ゴールデンタイム」という同じ言葉でも、ひとたび場面が変わるとその意味合いも変わってきます。私が勤務しています新発田病院の放射線科内にある、血管造影室（通称：アンギオ室）において「ゴールデンタイム」といえば、発症した病気に対し治療・処置を施せば、回復する可能性や後遺症を最小限に抑えられる時間のことを示し、緊張感が高まるキーワードです。

今回は、様々な血管に関わる病気の中でも『脳梗塞』に絞って、この「ゴールデンタイム」に注目してみます。

『脳梗塞』は脳の血管が細くなったり、詰まったりすることが原因で起こります。脳への血流が滞ってしまうと、刻一刻と脳へのダメージが大きくなります。したがって、血管が詰まってしまって病気を発症してしまったら、可能な限り早期に治療を施すことが重要になってきます。

■「血栓溶解療法」4.5時間以内※、「血栓回収療法」6時間以内※が「ゴールデンタイム」

『脳梗塞』に対する「ゴールデンタイム」は、4.5時間以内※とされています。これは、急性期の『脳梗塞』に対して、血栓溶解薬を点滴投与する「血栓溶解療法」のタイムリミットを示しています。また別の手段として、カテーテルと呼ばれる血管より細い管を使用して、脳の血管に詰まった血栓を絡めて取り除く「血栓回収療法」が施術されます。この「血栓回収療法」が行える「ゴールデンタイム」は、一般的に発症から6時間以内※とされています。（※6時間以上経過した症例でも、神経症候と画像診断に基づいて、治療が有効と判断できれば、血管内治療を行うことが勧められています。どんな病気もそうですが、早期発見・早期治療が鍵となります。）

■最新鋭機器で備えも万全

当院では、24時間体制で救急対応し、一刻を争う患者さんに対して迅速に検査や治療、診察を行っています。中でも、先述の通り『脳梗塞』は時間との勝負ですので、直接施術される脳神経外科・脳神経内科医師の熟達した技術に加えて、それを支えるスタッフ間の連携やチームワークが重要であると考えます。更には、患者さんへの負担を抑え、効率よく施術を行える専用医療機器の整備が必要とされています。

当院にも、脳外科の先生方の尽力により、本年度2月より最新鋭の脳血管撮影装置が新たに設置され稼働いたしました。これは、同時に2方向の血管撮影ができることにより、大幅な施術に要する時間を短縮できるほか、治療に有意義な画像情報を3D画像で構築できたり、より正確に手技が行えるようにデジタル処理された画像を駆使できたりと、今後の頭頸部血管におけるカテーテル治療成績の向上に、大きく貢献してくれると期待されています。

今後も、この最新鋭装置の力を十分に発揮させ、一人でも多くの患者さんが、発症前と変わらぬ生活を最大限取り戻せるように、スタッフ一丸となって努めていくことを宣言いたしまして結びの言葉とさせていただきます。



ミニクイズ

春に多くの人を悩ませる花粉症。
1日のうちスギ花粉が少ない時間帯は次のうちいつ頃でしょうか？

- ①早朝
- ②昼前後
- ③日没前後



患者さんの権利

- 患者さん並びにご家族は、患者さんの病状、医療の内容につき十分な説明を受けることができます。その上で患者さんは、自らの希望する最適な治療を選択することができます。
- 患者さんは、プライバシーを守られ、個人として尊重される権利があります。国籍、人種、信条、社会的身分、経済的状態などによる差別を受けることはありません。
- 患者さんは、安全で快適な療養環境の提供を受けることができます。また患者さん並びにご家族は、自らの希望・意見を述べることができ、それを尊重される権利があります。

回答は4ページにあります。



投書箱から

《患者さんの声1》

定期的な受診の為、通院しています。毎度の検査ですがいつもやはり緊張しています。本日のMRIの検査でした。以前頭痛（造影剤？）が起こっていたことを覚えていただき、「薄くしておいた」や、体に諸々のグッズをのせていく際も1つ1つ丁寧な説明をして下さいました。「慣れている」「もう分かっている」と傲慢にならず患者に寄り添う姿勢に感心しました。さすが県立病院の職員さんだと思いました。ありがとうございました。無事に検査を終えられました。

《回答1》

そのようにおっしゃっていただけて、とても励みになります。造影剤に関するだけでなく、会議や情報システム上で様々な情報を共有するよう日頃から心掛けております。

検査の際に分からないことや困ったことがあれば、遠慮なくお声がけください。今後とも皆様にとって、より良い検査となるよう精進してまいります。

《患者さんの声2》

新発田病院に搬送された際は本当に危ない状態でしたが救急隊、救命救急センター、集中治療室、4A病棟、手術室、先生方、看護師さん達等々、多くの部署、多くの方々に助けていただきました。

転院の日、担当していただいた先生がご不在で、お礼を言えなかったのが心残りなのと、お一人お一人にお礼を言ってまわりたいくらいですが無理なのでここに書かせていただきました。

大変お世話になりました。助けていただき、ありがとうございました。（実名あり）

《回答2》

感謝のお言葉をいただきありがとうございます。

患者さんのご回復のため、病院スタッフ一同、日々全力で取り組んでおります。

今後もより良い医療の提供に努めてまいります。

ミニクイズ ～回答と説明～



答え ① 早朝

天気や地域にもよりますが、花粉の飛散ピークは1日に2回あります。早朝に山から飛散しはじめた花粉は数時間で都市部の上空に運ばれて昼前後に一部落下し、1回目のピークを迎えます。午後になるといったん落ち着きますが、日没前後に気温が下がると上空の花粉が降りてきたり、地面に落ちていた花粉が舞い上がったりするため2回目のピークを迎えます。

編集後記

新発田病院だよりをご覧いただきありがとうございます。

今年の干支の蛇は、知恵が深い生き物だといわれています。金運の象徴としてよく知られていますが、蛇が脱皮して新しい姿に生まれ変わることから、成長や再生の象徴ともいわれています。このことから、巳年は新しい挑戦を始めたり、生活のリズムを整えたりすることに適しているそうです。新発田病院も社会の変化に合わせて柔軟に、蛇のように粘り強く成長し、役割を果たしていきたいと思っております。来年度もよろしくお願いたします。

《編集委員》

中川 範人	榊原 清一	浅野 堅策
上杉 史	加茂 隆太	神田 真志
小林 航	柏木 夕香	大橋 典子
高野 正司	佐藤 拓也	草間 涼